

至急  
第一二七八

官秘甲第二三三號

昭和十七年一月二十二日

照會

遞信次官 手島

陸軍次官 木村 兵太郎 殿

滿洲國交通部官吏ヲ當省へ轉用ニ關スル件

左記ノ滿洲國交通部官吏ヲ當省遞信技師ニ任用致度候處御差支無之哉  
御回報相成度

記

郵政總局電政處長

齋藤正一

交通部技佐兼總務廳技佐

松平初太郎



遞信省

〇〇

郵政省庶務課

保存期限 十年  
 決裁指定  
 局長委任  
 決行指定

大臣		局長 主務		政務 次官		受領番 老受第二七八號	件名 遼省官吏要員トレテ満洲國現職官吏割愛 方ニ關スル件
次官		局長 代		政務 次官			
高級 副官		主務 課長		參與官		起元廳(課名)	遼省
主務 副官 官房御用掛		主務 課員		書記官			
審案 筆者							
主務局		局長		局長		決行(決裁)後 回覽課名	
主務課		局長		局長		決行(決裁)前 連帶 回覽課名	
主務課		局長		局長		決行(決裁)前 連帶 回覽課名	
主務課		局長		局長		決行(決裁)前 連帶 回覽課名	

政務次官 回付  
 決裁前連帶  
 參與官 課名

決行(決裁)後  
 回覽課名

局長  
 主務課

次官より開業軍參謀長宛通牒 (陸海密)

一月二十六日開參滿電第五一號ニ依ル左記ノ者ニ

對スル首題ノ件、頭書ノ通發令セラルタルニ付承

知相成度

左記

(交通部技佐兼總務廳技佐)

松平 初太郎

任遞修技師

叙高等官六等 七級俸下賜

工務局勤務ヲ命ズ

(二月十日附)

陸海軍省第一五〇號 昭和七年九月廿七日





陸軍省  
第二三八八

官秘甲第二三三號

昭和十七年二月十二日

通牒

遞信次官 手島

陸軍次官 木村 兵太郎 殿

滿洲國交通部官吏ヲ遞信技師  
要員トシテ任用方ノ件

對陸滿密第八四號（一月二十九日）

遞信技師要員トシテ割愛ヲ得タル左記ノ者ニ對シテハ當省側頭書ノ通  
發令相成タルニ付御了知アリ度

記

（交通部技佐兼總務廳技佐）

松平 初太郎



遞信省

27 結

1.278

保存期限

十年

決裁指定



決行指定



政務次官 回付 決裁前連帶  
參與官 後課名

決行(決裁)後  
回覽課名

受領番號

重受第二七八號

起元應(課)名

遞信省

件名

遞信省官吏要員トシテ滿洲國現職官吏割愛  
方ニ關スル件

大臣

委

次官

委

高級副官



主務副官



書記官

審案

主務局長

代



主務課長



主務課員



主務局長

受領番號  
重務課第九二號

提出

昭和拾七年貳月五日

受領

昭和拾七年貳月五日

了結

昭和拾七年貳月五日

大臣官房

受領番號  
昭和拾七年貳月五日

提出

昭和拾七年貳月五日

受領

昭和拾七年貳月五日

了結

昭和拾七年貳月五日

主務局長



次官より關東軍參謀長宛通牒 (陸滿參)

一月二十六日關參滿電第五一號ニ依ル左記ノ者ニ對  
シテハ頭書ノ通發令セラレタルニ付承知相成度

左記

(郵政總局電政處長)

齋藤正一

任進修技師

叙高等官二等 賜四級俸

工務局標準電波建設所長ヲ命ス

(二月二日附)

陸滿密第一一〇號

昭和拾七年貳月五日



陸軍省 第二七八號 附其二

官秘甲第二三三號 通

昭和十七年二月二日

遞信次官 手島

陸軍次官 木村 兵太郎 殿

滿洲國交通部官吏ヲ遞信技師要員  
トシテ任用方ノ件

對陸滿密第八四號（一月二十九日）

遞信技師要員トシテ割愛ヲ得タル左記ノ者ニ對シテハ當省側頭書ノ通  
發令相成タルニ付御了知アリ度

記

（郵政總局電政處長）

齋藤正一

任遞信技師

遞信省



272

叙高等官二等  
工務局標準電~~及~~建設所長ヲ命ス  
賜四級俸

(二月二日附)

遞信省

011

郵傳省印



保存期限

十年

決裁指定

局長委任

決行指定

政務次官 回付 決裁前連帶  
參與官 課名

決行(決裁)後  
回覽課名

受領番號 重受第ニ七八號  
起元應(課)名 通信

件名 滿洲國交通部官吏通信技術要員トシテ割愛方行

大臣 委  
政務次官 次官 參與官 書記官 審案 筆記者  
局長 次官 高級副官 主務副官  
主務局長 主務課員

代 互  
互

大臣房	主務局長	主務課長	主務副官	主務課員
受領	受領	提出	提出	提出
昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日
了結	了結	了結	了結	了結
昭 和	昭 和	昭 和	昭 和	昭 和
年	年	年	年	年
月	月	月	月	月
日	日	日	日	日
局長	局長	局長	局長	局長
課長	課長	課長	課長	課長

左 官

次官より進信次官宛回答 (陸滿密)

一月二十二日附官秘甲第三三號より御照會  
ニ係ル左記者ニ對スル首題ノ件ハ滿洲國政  
府ニ於テ異存無之此段及回答候也

進テ齋藤處長ハ二月一日附退官發令セラル  
トキニ付御承知相成度

左記

郵政總局電政處長 齋藤正一

交通部技佐系總務廳技佐松平初太郎

陸滿密第八四

昭和拾七年五月十九日

卷第二十八

其

秘電報譯

月 日 午前 午後 一時 五分 著

17.1.27

17.1.27

第新京號

次

官宛

發信者

關東軍參謀長

關參滿電第五一號

陸滿密電第九號ニ依ル滿洲國郵政總局電政處

長齊藤セウイチ及交通部技佐松平初太郎

兩名ヲ通信者通信技師要員トシテ割愛方ノ件異存

無ク追テ齊藤セウイチ<sup>正一</sup>當方退官發令ハ二月一日ト

致度ニ付貴見承リ度

二月一日退官發令通信者異存

齊藤セウイチ

第一六六號

三月十四日

結

# 陸軍次官殿

婦人標準服ノ普及ニ關スル件

本省ニ於テハ戰時下ニ於ケル國民生活刷新ノ一環トシテ婦人服裝ノ改善ヲ圖ル爲メニ婦人標準服研究會ヲ設置シテ調査研究セシメタル結果今般別添ノ要領ニ基キ先ヅヒ常着タル婦人服ノ標準型ヲ定メ候ニ付テハ之ガ普及指導ニ關シ格別ノ御高配相煩度候

追テ本標準型ノ型式ニ付テハ印刷出來次第送付可致候ニ付細了承相成度申添候

兵備

拾年保

陸軍省發生第二五號

壹第 〇九號

昭和十七年二月二十七日

厚生 次 官

17.3.1

17.3.12

陸軍省 17.3.01 第〇九號 兵備課

17.3.9 第105號 兵備課

官印

婦人標準服ノ制定及普及ニ關スル件

(昭和十七年二月十九日  
次官會議諒解事項)

第一、婦人標準服ノ制定

我國民ノ服裝ハ久シキニ亘リ之ニ關スル指導方針ノ確立ヲ缺キ  
全ク各自ノ自由ニ放任セラレタルガ爲ニ極メテ亂服ニ流レ、國民  
ノ容儀、思想上ニ惡影響ヲ及ボセルノミナラス、保健、活動能  
率、經濟等ノ見地ヨリシテ遺憾ノ點尠カラズ、之ガ改善ノ方策  
ヲ講スルコトハ刻下喫緊ノ要務ナリトス。仍テ政府ハ茲ニ國民  
服令ヲ制定シ男子ノ服裝ニ關シ規正ノ方途ヲ講ジタルガ、今般  
衣料ニ關スル消費統制制度ノ確立ヲ後トシ、婦人ノ服裝ニ關シ

差當リ其ノ日常着ニ付テ概ネ左ノ方針ニ依リ別冊ノ通條標準ヲ  
制定シ、之ガ普及ヲ圖リ以テ國民ノ衣生活ヲシテ決戦體制下ノ  
國家的諸要請ニ即應セシメントス。

一、標準服ハ日本婦人ノ服裝タルニ相稱シク日本の性格ヲ表現ス  
ルヲ以テ其ノ根本理念トス

二、標準服ハ質實簡素ヲ旨トシ容儀ヲ正シクシ眞ノ女性美ヲ發揮  
セシムル如ク之ヲ考察スルコト

三、標準服ハ民族増進ノ要請ニ應ジ婦人ノ保健上最善ノモノタラ  
シムル如ク之ヲ考察スルコト

四 標準服ハ婦人ノ活動分野増大ノ動向ニ從ヒ、具ノ活動効率増進

上最善ノモノヲラシムル如ク之ヲ考察スルコト

五 標準服ハ現下ノ減維事情ニ鑑ミ、退藏玄纒ノ更生活用、衣料ノ

節約其ノ他經濟ニ最宜ノモノヲラシムル如ク之ヲ考察スルコト

六 標準服

六 標準服ハ國民生活ノ實情ニ鑑ミ、仕立上自家裁縫主義ヲ徹底セ

シムル如ク之ヲ考察スルコト

七 標準服ハ婦人服裝ノ特殊性ニ着目シ、之ヲ制服的ニ一定スルコト

八 遊ケ前各項ノ原則ニ準據スル限り、其ノ部分的應用工夫ヲ爲

スルコトヲ認ムルコト

婦人標準服普及普及

一、婦人標準服普及ノ宣傳ニ付テハ概ネ左ノ方法ニ依ルモノトス。

イ、週報及寫眞週報ニ標準服ニ關スル解説ヲ掲載スルコト

ロ、ラジオ放送ニ標準服ニ關スル解説講座ヲ設クルコト

ハ、新聞及雜誌ニ標準服ニ關スル解説ヲ掲載スルコト

ニ、映畫及演劇ニ於テ標準服ノ着用方ヲ指導スルコト

ホ、百貨店及服飾業者ニ對シ標準服ノ作製及展覧方ヲ指導ス

ルコト

二、婦人標準服普及ノ指導ニ付テハ概ネ左ノ方法ニ依ルモノトス。

イ、指導的地位ニ在ル婦人ニ對シ率先示範的ニ標準服ヲ着用

スル如ク指導ヲ行フコト



ロ、裁縫教科書に改訂シ標準服ニ關スル事項ヲ挿入スルト共

ニ裁縫教師ニ對シ標準服ノ作製ニ關スル指導ヲ行フコト

ハ、婦人團體ヲ通シ標準服ノ普及ニ關スル指導ヲ行フコト

ニ、官廳、團體、會社、工場等ニ於テ新ニ女子ノ制服ヲ定ム

ル場合ニ於テハ標準服ノ型式中ヨリ之ヲ考案スルヤウ指

導スルコト

既ニ制服ノ定アルモノニ在リテモ特別ノ支障ナキ限り前

項ノ趣旨ニ準據シ適當ナル方法ニ依リ之ヲ改正ヲ行フコト

ト

ホ、既成品ノ作製ハ標準服ノ型式ニ準據セシムル如ク指導ス

ルコト

ハ、適宜ナル者ヲシテ標準服ノ型式ニ準據シテ型式ヲ作製セ  
シメ之ヲ廉價販賣セシムルコト

ト、活動衣ニ付テハ特ニ防空關係團體ヲ通ジ之ヲ普及ニ關ス  
ル指導ヲ行フコト

チ、外地婦人及不東亞共榮圈内在留同胞婦人ニ對シ標準服ノ  
普及ニ關スル指導ヲ行フコト

三、婦人標準服ノ普及ニ關シテハ特ニ退職衣類ノ更生活用ニ依ル  
ヲ主眼トシ新規衣料ノ購入ニ依ルコトハ可及的ニ之ヲ避ケシ  
ムル如ク指導スルモノトス。

四、婦人標準服ノ普及ニ關シテ左ノ事項ニ付衣料ノ規正等ヲ考  
慮スルモノトス。

イ、小巾織物及帯地ノ寸法ハ標準服ノ基準ニ從ヒ規格ノ統一

ヲ圖ルコト

ロ、衣料ノ却質ヲ標準服ニ相應シキモノヲラシムル如ク可及

的ニ單純化スルコト

ハ、衣料ノ色合、柄及模様ニ付標準服ニ相應シキモノヲ考案

セシムルコト

ニ、下着類ノ規格ヲ可及的ニ單純化スルコト

ホ、前各項ニ伴ヒ衣料ニ關スル價格統制制度及消費統制制度

等ニ付適當ニ考慮スルコト

以上

17

注意

(本審案用紙八三年以内保存ノモノニ使用スルモノトス)

拾年保

陸軍

保存期限

三年

決裁指定

局長委任

決行指定



房官臣大		課局務主		大臣		件名	受番	政務次官 參與官 回付	決裁前後	連帶 課名	決行(決裁)後 回覽課名
了結	領受	出提	領受	號番	大臣						
昭和	昭和	昭和	昭和	錢甲一六号	大臣	九五又	起元廳(課)名	文部省			
年	年	年	年	昭和一六年三月十四日	次官	學校保管係ハ不用軍用銃返納ニ関スル件					
三月十四日	三月十一日	昭和一六年三月十四日			局長						
(裁決)行決		帶		連		參與官		書記官		審案	
長局	長局	長局	長局	四二八號	局長						
長課	長課	長課	長課	四二八號	主務局長						
					主務副官						
					主務課員						
					官房御用掛						
					審案						
					筆記者						

陸普

副官ヲ文部省体方部長ハ

二月二十四日附地體第一〇二號ニ係ル首題ノ趣寺匠團  
匠部部ハ返納セシメラレ度

返ラシメ要ス所送還振査ニ當方於テ負担可致存申添フ

陸普第一四二八號

昭利拾七年參月拾貳日

陸普

副官ヲ陸軍兵器本部部長ハ

首題ノ件ニ關シ別紙甲號寫通照會方之別紙乙號ノ趣通牒  
セム付可然取計ニ度依命通牒ス

陸普第一四二八號

昭利拾七年參月拾貳日

大日本帝國政府

拂下

陸軍省  
第一〇二號  
第九五七號

昭和十七年二月二十四日



文部省體育局

陸軍省兵器局長 殿

學校保管ニ係ル不用軍用銃返納ニ關スル件

今般香川縣立木田農業學校長ヨリ標記ノ件ニ關シ別紙ノ通申請有之タル  
ニ付右處置ニ關シ此段及協議



檢下

# 大日本帝國政府

昭和十七年一月二十八日

香川縣立木田農業學校長 大塚

靜

文部大臣 橋田 邦彦 殿

學校保管不用軍用銃返納ニ關スル件

首題ノ件ニ關シ本校保管左記銃器返納致度申出候也

銃種	數量	毀損程度
露式連發銃	六挺	遊底離脫 六
二十二年式村田銃	十八	遊底離脫 十八並ニ木皮破損

# 大日本帝國政府

毀損理由

大正三年八月三十日拂下ヲ受クル以來教練用銃器トシテ使用シ保管手入ニ關シテハ其ノ都度嚴ニ注意アリシモ長年月間ニ摩滅破損シアリテ取扱粗漏ナリシカ遊底ノ離脫並ニ床尾板ノ離脫或ハ木皮ノ損傷等アリテ教育上使用ニ堪ヘス依テ長ラク放置シアリ

先ニ昭和九年四月末陸軍省ヨリ學校保管不用軍銃返納ニ關スル件ノ通牒ニ接シ昭和九年五月三日附ニテ陸軍兵器本廠長宛返納申出シタルモ其ノ後何等ノ指示モナク今日ニ至ル次第ニテ再度申出候也

追テ御指示方相煩度御願申上候



第一八號

保存期限

三年

決裁指定

局長委任

決行指定

政務次官回付  
決裁前後連帶  
課名

軍務

工政

決行(決裁)後  
回覽課名

受領番號

壹第九五一號

起元廳(課)名

戰備課

件名

日本製鐵株式會社是款變更件

政務次官

參與官

書記官

審案  
筆記者

大臣

委員

委員

高級副官

主務副官

主務課員

官房御用掛

主務課員

主務課員

主務課員

主務課員

主務課員

主務局長

主務課長

主務課員

主務課員

主務課員

主務課員

主務課員

整裁課 第貳壹號

主務局長  
受領番號  
昭和三十七年三月十一日

連帶

局長

課長

大臣官房  
受領番號  
昭和三十七年三月十二日

決行(決裁)後  
回覽

局長

課長

1311

1311

拾年保

陸軍次官ヨリ商工次官宛回答案

陸普

三月十日附一七鐵第六三七號ヲ以テ照會相  
成候首題ノ件ニ関シテハ異存無之ニ付及

回答候

陸普第一四五二號

昭和拾七年拾月拾拾日



秘

陸軍省 第一號  
九五一號

一七鐵第六三七號

昭和十七年三月十日

商工次官 権名 悦三郎



陸軍次官 殿

日本製鐵株式會社定款變更ノ件

今般日本製鐵株式會社ニ於テハ三月二日三日株主總會ヲ開催シ別紙寫ノ通  
定款變更ノ決議ヲ行フ豫定ニ有之右決議ノ上ハ認可相成度旨願出有之候處  
本件ニ付テハ豫テ御打合セノ次第モ有之認可相成見込ニ有之候條御了知  
相成度此段得貴意候  
尙右ニ關シ何分ノ御意向至急御回示相煩度申添候



尙亦ニ關シテハ、睡意向至急睡回示昧取更申添列

昧取更出列貴意列

本州ニ付テハ、新テ睡付合テ、先策子育テ睡回、睡取良及ニ育テ列列睡丁、味  
家煉變更ノ共、難ニ付テ新宝ニ育テ味取、土ハ睡回、睡取更旨、睡出育テ列、列  
今更日本煉睡料友會、加ニ付テハ、三月二十三日、料主聯會ニ開、謝心、眠、睡、寫、ノ、取  
日本煉睡料友會、加、味、家、煉、變、更、ノ、列

勳 軍 夫 官 選

商工夫官 謝 各 封 三 頂

昭和十一年三月十日

一寸鐵第六十三號



商 工



参 考

新 定 款

第九條第一項、第二項、第四項及第六項中「株主タル法人」ヲ「株主」ニ  
改ム

第十一條中「及一万株券ノ六種」ヲ「一万株券、五十万株券及百万株券ノ  
九種」ニ改ム

第十八條中「之ヲ開キ」ノ下ニ「社長之ヲ招集ス」ヲ加フ

第十九條第一項中「ノ職務」ヲ削リ「ヲ行フ」ヲ「ニ當ル社長事故アルト  
キハ豫メ社長ノ定ムル所ニ依リ副社長又ハ他ノ取締役之ニ當ル」ニ改メ第  
二項ヲ削ル

第二十八條本會社ニ社長一名及副社長二名ヲ置ク

第二十九條社長ハ本會社ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス

社長事故アルトキハ豫メ社長ノ定ムル所ニ依リ副社長又ハ他ノ取締役其ノ  
職務ヲ代理シ社長缺員ノトキハ豫メ社長ノ定ムル所ニ依リ副社長又ハ他ノ  
取締役其ノ職務ヲ行フ



副社長及取締役ハ社長ヲ補佐シ社長ノ定ムル所ニ依リ本會社ノ業務ヲ分掌シ又ハ之ニ參與ス

第三十條社長及副社長ハ株主總會ニ於テ取締役中ヨリ之ヲ選任ス  
第三十一條本會社ノ業務ノ方針其ノ他重要ナル事項ハ取締役會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

第三十二條取締役會ハ取締役ヲ以テ之ヲ組織シ社長之ヲ主宰ス  
社長事故アルトキハ豫メ社長ノ定ムル所ニ依リ副社長又ハ他ノ取締役其ノ職務ヲ行フ

第三十三條ニ左ノ一項ヲ加フ  
常任監査役ハ常時本會社ノ業務ヲ監査ス

大日本帝國政府

閣

司法省人庶第三四一號

昭和十七年三月九日

司法次官 大森 洪 太

陸軍次官 木村 兵太郎 殿

拜啓陳者來ル三月廿六日ヨリ三日間新京ニ於テ第二次經濟實務家會  
同開催ニ當リ司法事務官寺西博ヲ出席セシメ且ツ其ノ機會ヲ以テ滿  
洲國並中華民國ニ於ケル經濟情勢視察ノ爲出張ヲ命セラルヘキ豫定  
ニ有之候ニ付テハ各地關係廳ニ對シ便宜供與方御配慮相願度別紙旅  
行日程相添ヘ此段得貴意候

拾年保

九五二

號



當課ニ於テ處置済  
軍務課

寺西事務官滿洲國及中華民國出張旅行日程

三月廿二日(日)	午後一時	東京發(急行)
廿三日(月)	午後九時五分	下關着
廿四日(火)	午前六時	釜山着
廿五日(水)	午前八時	釜山發(のぞみ)
廿五日(水)	午後一時五〇分	新京着
廿六日(木)		
廿七日(金)		
廿八日(土)		
廿九日(日)	九時二五分	新京發
卅日(月)	一五時四八分	ハルビン着(泊)
卅一日(火)	二二時二分	ハルビン發(急行)
四月一日(水)	八時	奉天着

會同出席

滞在

視察

滞在



九日 (木)	八日 (水)	七日 (火)	六日 (月)	五日 (日)	四日 (土)	三日 (金) 休	二日 (木)	一日 ( )
午前 七時三〇分	午前 九時二五分	午後 一時四五分	午後 一〇時三五分	午前 五時五分	二三時八分	七時五〇分	一二時五〇分	一九時四〇分
東京着	下關發 (急行)	下關着	釜山發	釜山着	安東發	奉天發	北京發 (急行)	北京着 (泊)
						滯在	滯在	視察

第二〇〇號

三月十七日

20

中村



急

歐二普通合第三九三號

昭和十七年三月四日

拾年係

八六四

陸軍次官殿

外務省



別紙添附



在昭南獨逸人財産處理方ニ關スル件  
本件ニ關シ今般在京獨逸大使ヨリ別紙ノ通依頼越シタルニ付委曲  
右ニテ御了悉相成且貴省ノ御意見御回報相煩度

本信送付先 陸軍省、海軍省

軍務課ニ於テ送付ス

中村

外務省

昭和十七年二月二十三日附在京獨逸大使發  
東郷大臣宛公信假譯

(昭十七・二・二十四 歐二)

以書翰啓上致候、陳者本使ハ獨逸政府ノ訓令ニ基キ且本年一月七日  
 附政 1/4 號當護口上書ニ關シ左ノ通通報スルノ光榮ヲ有シ候  
 獨英兩國間ニ戰爭勃發以來昭南ニ於ケル獨逸人財産ハ英官憲ノ手ニ  
 依リ強制處分ヲ受ケタル處右ノ處分ハ特ニ一九三九年九月四日ノ英  
 國ノ規定ニ基キ行ハレタルモノニ有之候獨逸政府ハ右財産ノ解放ヲ  
 速カナラシムル爲日本政府ニ於テ在昭南獨逸人財産ノ保護ノ爲ニ必  
 要ナル總テノ處置ヲ執ラルル様懇願スルモノナルモ同時ニ特ニ獨逸  
 人ノ所有權ニ對スル處置ヲ監督シ居タル英國植民地官憲ノ書類保管

方後且慮相成度尙又清算收益金若クハ獨逸側債權ノ拂込マレタル會  
計若クハ勘定ノ保全現存有價物ノ確保、財産及收益金返還ニ關スル  
規定設定、清算人ノ清算書作成並ニ獨逸人權利者又ハ其ノ代理人ニ  
對シ返還セララルル迄ノ期間ニ於ケル獨逸人財産入手者ノ一層嚴格ナ  
ル責任ノ設定等ノ儀御依頼仕度候

右諸件ニ對スル貴大臣ノ好意的御盡力ニ對シ本使ハ前以テ衷心ヨリ  
ノ謝意ヲ表明仕候尙本使ハ昭南及香港ニ於ケル獨逸人財産ノ解除ニ  
關スル日本政府ノ御意向ヲ承ルヲ得バ幸甚ト存候

右申進傍本使ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬 具

號 一 二 第

21



保存期限 十年  
決裁指定 局長 委任  
決行指定

房官臣大		課局務主		大臣 委			件名 救護班派遣ノ件	番受 號領 壹第九〇〇號	政務大官 回付 決裁前 後一連帶 課名	
了結	領受	出提	領受	號番	局長	次官				政務 次官
昭和 年三月十七日	昭和 年三月十三日	昭和 七年三月拾日	昭和 年 月 日	醫審第壹九四號	局長 山	次官 委				政務 次官
(裁決)行決 覽回後		帶連		局長			參與官	起元廳(課)名	決行(決裁)後 回覽課名	
局長		局長		局長			高級 副官	海 軍 省		
長課		長課		主務 課長			書記官			
				主務 課員			審案 筆記者			
				官房御用掛 主務副官						
				局長						

拾年保

陸軍

九〇〇號



官房第一一〇四號

昭和十七年二月二十八日

主務課員



(本田納) 高

陸軍大臣殿

海軍大臣

救護班派遣ノ件照會

日本赤十字社救護班派遣ニ關スル件別紙救本密第二二號ノ通同社長ヨリ  
申出有之候ニ付別紙ノ通内閣總理大臣ヲ經テ  
天皇陛下ニ上奏シ且  
皇后陛下ニ言上方宮内大臣ニ依頼致度異存無之候ハバ別紙ニ捺印ノ上發  
送相成度  
追テ救本密第二二號ハ用濟後返送相成度

(別紙添)

(終)

海軍

三月十七日

第二二號

22



東亞第八號

昭和十七年三月五日

拾年保

第九二方



陸軍大臣

東條英機殿

大東亞建設審議會幹事長

鈴木貞一



大東亞建設審議會各部會開催ノ件

今般左記ニ依リ大東亞建設審議會各部會開催相成候條各位御擔當ノ左記部會ニ御參集相煩度此段及通知候

記

一、日程

日	時	部會
昭和十七年三月十日(火)	午后一時半	第二部會
三月十一日(水)		第三部會

三  
場  
所

於 總理大臣官舎

昭和十七年三月十二日(木) 午後一時半  
三月十三日(金)

第 四 部 會  
第 一 部 會



牛込區市谷本村町

陸軍大臣 東條英機 殿

至急 速達



閱

東亞雜誌第九號

昭和十七年三月五日

第九號



陸軍大臣

東條英機 殿

大東亞建設審議會幹事長 鈴

木貞



大東亞建設審議會第四部會ノ委員追加ニ關スル件

今般伊藤文吉委員ハ大東亞建設審議會第四部會委員ニ追加セラレタル  
ヲ以テ此段及通知候



第 三 二 一 號

23

決行指定



決裁指定

三年

保存期限

大臣		大臣 委		件名	受番 號領
局長	主務	次官	政務		
局長		高級 副官		「バタヴィア」隔日洛祝電ノ件	壹第九五〇号
局長		主務 課長			
局長		主務 課長		起元應(課)名	外務省
局長		主務 課長		書記官	
局長		主務 課長		審案 筆者	

政務次官 回付 決裁前後連帶

拾年付

決行(決裁)後 回覽課名

左 官

陸奥

次官より外務次官宛

今次「バタダイア」陥落ニ方リ山路公使ヨリ御  
町重ナル祝電ニ接シ誠ニ感戴ニ堪ヘス此旨  
同公使へ可然傳達方御配慮相煩度

陸奥第一四七〇號 昭和七年三月廿四日

陸奥第一四七〇號 昭和七年三月廿四日

軍務

三九

歐二普通合第四三八號

昭和十七年三月十日

九五〇

17. 3. 11  
房 臣大

陸軍省  
17. 3. 11  
20  
軍務課

陸軍次官殿

外務次官

官

「バタヴィア」陥落祝電傳達ノ件

本件ニ關シ今般駐「ブルガリア」國山路公使ヨリ左記ノ通電報越シタルニ付此段傳達申進ス

今回又々「バタヴィア」陥落ノ快報ニ接シ欣喜ニ堪ヘス官民一同ヲ代表シ茲ニ謹ミテ滿腔ノ祝意ヲ表ス右陸海軍大臣ヘモ御傳達請フ

本信送付先 陸軍省・海軍省

外務省

三月十七日

第二四二號

24



陸軍省 第一九七一號

拾年保

儀普通合第四三六號

昭和十七年三月十日



外務次



陸軍次官殿

在本邦中華民國大使館附陸軍武官着任  
ニ關スル件

在本邦中華民國大使館附陸軍武官陸軍少將王維藩ハ本月一日着任  
セル旨同國大使ヨリ本月四日附書翰ヲ以テ通知アリタルニ付此段  
通牒ス

本信送付先 式部次長、内務次官、陸軍次官、警視總監

遞信省郵務局長

外務省

副官ヨリ參謀本部庶務課長へ照會 (陸密)

軍事保護院ヨリ傷痕軍人職業保護施設設置計畫ノ爲別紙

目錄ノ軍事秘密地圖借用方願出アリ貸與致度ニ付印刷費該

院負擔ニテ本省へ交付相成度

陸密第七〇七號 昭和六年三月十八日

右現品受領後左案決行

副官ヨリ軍事保護院總裁へ通牒

(陸密)

三月一日附軍事保護院發業第四一號申越ニ係ル軍事秘密地圖別紙

目錄ノ通及御送付候

追テ貸與期限ハ昭和十六年十二月三十一日迄トシ陸軍秘密書類取扱手續ニ據リ取扱

相成度申添候

陸密第八〇六號

昭和六年三月廿八日

現品別送

第二五九號

25

保存期限  
決裁指定  
決行指定

大臣		委員		局長		主務課長		主務課員	
次官		高級副官		參與官		書記官		主務副官	
政務次官		官房御用掛		審案		筆記者		審案	
局長		主務課長		局長		局長		局長	
局長		局長		局長		局長		局長	
局長		局長		局長		局長		局長	
局長		局長		局長		局長		局長	

政務大官回付  
決裁前連帶  
參與官  
課名

御用掛

受領番號  
壹第八七六號  
起元廳(課)名  
軍事保護院  
件名  
軍事秘密地圖貸與ニ關スル件

決行(決裁)後  
回覽課名  
書類掛

主務局長  
受領番號  
昭和三十六年三月十七日  
提出  
昭和三十六年三月十八日  
大臣官房  
了結  
昭和十六年三月十八日

決行(決裁)後  
回覽  
局長

局長

審案

不奉旨



軍事保護院發業第四一號

昭和十六年三月一日

軍事保護院總裁 男爵 本庄

陸軍大臣 東條 英 機 殿

秘密地圖借用ノ件申請

標記ノ件奉記ノ通借用致度候條御承認相成度及申請候

記

- 一 地圖 伊東及稻取(陸地測量部發行五萬分ノ一地圖)
- 一 部數 各參部
- 一 使用目的 傷痍軍人職業保護施設設置計畫ノ爲
- 一 使用期限 自昭和十六年三月十五日 至昭和十六年十二月三十一日



號

軍事保護院

規格 B6

陸軍省御中  
昭和十六年三月十四日

參謀本部



本件ノ御意見承リ度  
 昭和十六年三月八日 大原 守 房  
 防衛課 御中  
 參謀本部 御中

昭和十六年三月五日  
昭和十六年四月五日

控

天三  
陸軍大臣官房

昭和

年

月

日

秘密地圖送付目錄

左記秘密地圖

陸軍大臣官房

左記

月

日陸密第

號送付

圖名	圖	梯尺、總圖名、標記號	調製年月日
伊中	伊	五万分一圖 東京陸軍要地傍第 本 號	同
緬取	緬	第 一 〇 號	同
秘天第 至 自	秘天第 至 自	秘天第 至 自	秘天第 至 自
連番號	連番號	連番號	連番號
部數	部數	部數	部數



保存期限

決裁指定

決行指定



政務次官  
參與官  
回付

決裁  
前後  
連帶  
課名

決行(決裁)  
回覽課

陸軍大臣官房書類掛

陸軍

受領  
番號

壹受第八七二號其之一

起元廳(課)名

軍事保護院

件名

軍事秘密地圖返納ノ件

大臣



局長  
主務

次官

政務  
次官



參與官

局長  
主務

高級  
副官



書記官

主務副官  
官房掛  
主務課員

主務課員



審案  
筆記者



主務局

號番

昭和  
年  
月  
日

連帶

局長

長課

領受

了結

昭和  
年  
月  
日

決行後  
決回

局長

長課

大官房

了結

昭和  
年  
月  
日

決行後  
決回

局長

長課

副官ヨリ參謀本部庶務課長通牒

(陸密)

別紙目錄ノ軍事秘密地圖用濟ニ付返納ス

追テ本地圖ハ軍事保護院ニ貸與シアルモノニ付

申添 / (現子別送)

陸密第六一四號

昭和七年三月拾日



Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '地圖' and '軍事'.

秘密地圖送付證

昭和 年 月 日

左記秘密地圖

左記

月 日 陸

號送付

調製年月日

梯尺、總圖名、標記號

圖名

連番

號

部數

五万分一圖

第一九號

伊東 稻取

秘天第一九號

壹

第一〇號

稻取

秘天第一〇號

壹

第一號

秘天第一號

第一號

秘天第一號

第一號

秘天第一號





十六年  
第一〇〇號其

業發第一三一號

昭和十七年三月四日

陸軍省副官殿

軍事秘密地圖返納ニ關スル件

昭和十六年三月二十八日陸密第八〇六號ヲ以テ貸與相成候秘密地圖目錄  
添附及返納候也

軍事保護院業務局長



軍事保護院

規格 B 5

16876

91



秘、密、地、圖、返、納、調、書

調製年月日	梯尺、總圖名、標記號	圖名	一連番號	部數
同	五萬分一圖 東京灣要塞近傍第九號	伊東	秘天第參七七號	壹
第一〇號	稻取	秘天第參貳號	壹	

軍事保護院

號 第 二 第

26

保存期限

三年

決裁指定

局長

執行指定



房官臣大		課局務主		大臣 丞	件名 軍用資源秘密保護法一關スル件	番受 壹第三四二號	政務大官 回付 決裁前後 連帶 務所課工政課 起元廳(課)名 連信省	陸軍		
了結	領受	出提	領受						政務 次官	參與官
昭和	昭和	昭和	昭和						高級 副官	書記官
年	年	年	年						主務 課長	審案 筆記者
三月十九日	三月十三日	三月十三日	一月二十日	局長 主務 代	局長	局長	局長			
(裁決)行決		帶連		副官		書記官				
覽回後		帶連		高級副官		書記官				
長局		長局		副官		書記官				
長課		長課		主務課長		書記官				
		工政		主務課員		書記官				
		務所		主務副官		書記官				
		務所		主務副官		書記官				
		務所		主務副官		書記官				

拾年付

陸軍

陸亞密

副官ヨリ通信大臣官房企畫課長へ通牒

一月二十六日企第七九號ニテ請求ニ係ル軍用資源秘表  
保護法施行令第十五條第二項ニ依ル證票別紙

一通送付ス

陸亞密第十七五號昭和拾七年參月拾四日



陸軍

軍用資源秘案保護法施行令第十五條、證票交付者名簿

公名	證票種類	據法規	證票使用者官職氏名
佛元合社新修機之所滿田之切	第三種	海運統制令 船舶安全法 造船事業法	海軍省海務局技師 竹中滋夫 技手 鈴木元廣
計	白第一種 至第二種 共計		

陸軍省 第一號 三四二號

企第七九號



年一月廿六日

右の如き旨に付



逓信大臣官房企畫課長



陸軍省副官殿

軍用資源秘密保護法施行令第十五條ニ依ル  
證票ノ件

首題證票別紙ノ通新規要求致度ニ付可然御取計相成度  
追テ前任者ノ返却分ハ近日中ニ送付可致候

逓信省

(甲)

一、證票ノ種類  
第三種（各一枚）

二、法令行爲ノ根據法規  
船舶安全法  
海運統制令  
造船事業法

三、證票携帶者ノ官氏名及會社工場名

海務局技師	竹中滋夫	株式會社新潟鐵工所蒲田工場
海務局技手	鈴木元廣	池貝鐵工所田町工場

27

保存期限 三年 決裁指定 局長 決行指定

房官臣大		課局務主		大臣委		件名	番受	政務次官 回付	決裁後	連帶 課名	航空本部	起元廳(課)名	飛行(決裁)後 回覽課名
了結	領受	出提	領受	號番	局長								
昭和 年	昭和 年	昭和十七年三月五日	昭和 年 月 日	防衛甲第九一號	局長	主務	次官	政務	次官	高級 副官	主務副官 官房御用掛	審案	筆記者
昭和 年	昭和 年	昭和十七年三月五日	昭和 年 月 日	防衛甲第九一號	局長	主務	次官	政務	次官	高級 副官	主務副官 官房御用掛	審案	筆記者
(裁決)行決		帶連		局長		局長		局長		局長		局長	
長局		長局		長局		長局		長局		長局		長局	
長課		長課		長課		長課		長課		長課		長課	
長課		長課		長課		長課		長課		長課		長課	

軍用治具、漆、秘密保護法、閣下

卷第 八七四号

航空本部 17.3.-2 受付



陸軍

防正課

陸軍部

大臣ヨリ學生ト臣ハ通牒

二月二十日學生有志者第一二號ニテ請求ニ係ル

軍用密保秘密保護迄施力令其十五條等ニ

項ニ依ル證票別紙一通送付ス

陸軍部第六七五號

昭和七年三月五日





軍用資源祕密保護法施行令第十五條ノ證票交付者名簿

會社名	證票種別	法令行爲ノ根據法規	證票使用者官職氏名
"	第一種		厚生省 厚生事務官 百田 正弘
"	第一種		" 厚生事務官 原田 章
"	第一種		" 厚生理理事官 玉岡 最
"	第一種		" 厚生技師 井口 幸一
"	第一種		" 勞務官 佐藤 富治
"	第一種		" 厚生屬 小川 豊
"	第一種		" 厚生屬 木本 治平
"	第一種		" 小嶋 三郎
"	第一種		" 谷野 せつ
北海道廳	第一種		勞務官 向田 正勝
警視廳	第一種		坂本 徳太郎

陸 軍

計												
	自第一〇一號 至第一二三號	一二三	一二二	一一三	一一一	一一〇	一〇九	一〇八	一〇七	一〇六	一〇五	一〇四
	山口縣	靜岡縣	長崎縣	廣島縣	"	大阪府	京都府	"	群馬縣	"	"	齋福廳
	"	地方勞務官	地方事務官	地方事務官	地方勞務官	地方技師	地方事務官	屬兼警部	地方事務官	技師	警部	屬兼警部
	林原美津夫	古賀宗太郎	大坪 倉一	坂間 裕	木島 辰二	植田 英雄	宮地 直邦	山形 三郎	西 宗直	佐原 信市	福森 幸吉	石井 喜通

共拾參枚



# 大日本帝國政府

厚生省發書第一三號

昭和十七年二月二十三日

厚生大臣 小泉 親

陸軍大臣 東條 英機 殿

軍用資源秘密保護法施行令第十五條

ニ基ク證票ニ關スル件

工場、事業場ニ於ケル勞務行政執行上必要有之候條標記證票別紙調書  
 ノ通交付相成度此段及御依頼候  
 追テ變ニ交付相請候證票中當該職員ノ異動ニ依リ不用ト相成候分左  
 ノ通返却致候條御查收相成度

第二種證票

十八通

陸軍省 第一三號 陸軍大臣 小泉 親



(陸軍關係)

軍用資源秘密保護法施行令第十五條ノ證票返却及新規所要調

厚(一七・二・二〇)生省

道府縣別	前任者		新任者		摘要
	官職	氏名	官職	氏名	
本省	厚生事務官	大森 寬	厚生事務官	百田 正弘	第二種 前任者轉任
"	"	横大路 俊一	"	原田 章	"
"	厚生理事官	嶋 平亮	厚生理事官	玉岡 最	前任者退官
"	厚生技師	色川 三男	厚生技師	井口 幸一	"
"	"	"	厚生省事務官	佐藤 富治	新任
"	厚生 屬	小野崎 武夫	厚生 屬	小川 豊	前任者轉任
"	"	"	厚生 屬	木本 治平	新任
"	"	"	"	小川 三郎	"
"	"	"	"	谷野 せつ	"
北海道	"	"	北海道事務官	向田 正勝	"
警視廳	警視廳事務官	藤井 重雄	警視廳事務官	坂本 徳太郎	前任者轉任
"	警 部	岩崎 定衛	警 部	石井 喜通	"
				三〇	
				二二	
				七八	
				七八	
				七七	
				七五	
				七四	
				證票返却	
				證票返却	

長崎	福岡	廣島	兵庫	大阪	京都	群馬	伊東
地方事務官	地方技師	地方技師	地方技師		屬兼警部	地方事務官	警部
川島 孝良	橋山 廣胤	高橋 三郎	鈴木 敬雄		善如寺 勇	渡邊 捨男	伊東 壽
六八	六四	六三	五六		二一	二〇	三一
地方事務官			地方事務官	地方事務官	地方事務官	地方事務官	技師
大坪 倉一			坂間 裕	木島 辰二	宮地 直邦	山形 三郎	佐原 信市
前任者退官	前任者未定	前任者未定	前任者轉任	前任者轉任	新任	前任者轉任	新任

山 靜	口 岡		
		兼 衛生技師 兼 技手	兼 警察技師 兼 場師
		家 水 政 彦	菊 地 廣 真
		六 九	七 〇
	地 方 勞 務 官		
林 原 美 津 夫	古 賀 宗 太 郎		
	新 任	前 任 者 轉 任 後 任 者 未 定	前 任 者 退 官 後 任 者 未 定

第 二 八 號

28

保存期限 三年  
決裁指定  
局長 委任  
決行指定

大臣 委任		局長 主務		政務 次官		受 番 號 領		件 名 軍用資源秘密保護法ノ立入ニ関スル件	起元廳(課)名 鐵道省
次官		高級 副官		參與官		起元廳(課)名			
局長 主務		高級 副官		書記官		審 案		筆記者	
主務課員		主務副官 官房御用掛							
連 帶		局長		局長		局長		局長	
行決後 回覽		行決後 回覽		行決後 回覽		行決後 回覽		行決後 回覽	
防衛甲第九四號		昭和三十七年三月五日		昭和三十七年三月五日		昭和三十七年三月五日		昭和三十七年三月五日	
主務局		局長		局長		局長		局長	
大臣		局長		局長		局長		局長	



政務次官 回付  
決裁前(連帶)課名

決行(決裁)後  
回覽課名

電

陸普

大臣ヨリ鉄道大臣へ回答

號ヲ以テ函首ニ係ル首題

三月三日附鉄軍秘 第二〇

ノ件當方ニ於テハ貴條件ヲ許可相成差支無之ニ付回答ス

陸軍部 第三三五號



陸軍部

陸軍部



鐵軍秘第二〇號

壹第 八九一

昭和十七年三月三日



鐵道大臣 八田 嘉 明

陸軍大臣 東 條 英 機 殿

(連名各通)

海軍大臣 嶋 田 繁 太郎 殿

軍用資源秘密保護法ノ立入ニ關シ朝鮮總督府鐵道局長ヨリ別紙承認申請有之候處本件ハ關門隧道ニ於ケル軍用資源秘密ノ開示及操車場ニ於ケル軍用資源秘密ノ錄取ヲ除キ主管鐵道局長ニ對スル開示ヲ含メ併セ承認ノコトト致度此段及協議候





大日本帝國政府

鐵庶第八三號

昭和十七年二月二十六日

朝鮮總督府鐵道局長 山田 新十郎

鐵道大臣 八田 嘉明 殿

省線關門隧道其ノ他諸施設見學ニ關スル件

別紙申請ノ通當局關係者十名ヲシテ業務上見學セシメ度ニ付認可相成  
度候



立入(見學)許可願

本籍 福岡縣三潯郡城島町三二八番地  
現住所 京城府錦町一三。番地  
職業 朝鮮總督府鐵道局書記

野方壽國



年四。

本籍 岡山縣小田郡北川村大字甲字七三九番地  
現住所 仁川府山根町二二番地  
職業 朝鮮總督府鐵道局書記

高田 稔



年二八

本籍  
現住所  
職業

咸鏡南道咸州郡退潮面龍興里一八。番地  
平安北道博川郡東南面孟中里洞鐵道官舍  
朝鮮總督府鐵道局技手

德安哲



年一四二

本籍  
現住所  
職業

平安北道龍川郡楊下面立岩洞二〇八番地  
江原道江陵郡江陵邑洪文里一六番地  
朝鮮總督府鐵道局技手

伯山正行



年三八

本籍

神奈川縣高座郡藤澤町鶴沼村原

現住所  
職業

忠清北道永同郡黃欄面鐵道官舎  
朝鮮總督府鐵道局技手

橋本貞雄



年三八

本籍  
現住所  
職業

香川縣香川郡園座村大字山崎四。番地一  
咸鏡北道茂山郡延上面上倉洞  
朝鮮總督府鐵道局技手

藤井數雄



年三〇

本籍  
現住所

鳥取縣鳥取市立川村四四番地  
慶尚北道安東郡安東邑鐵道官舎

職業

朝鮮總督府鐵道局技手

井中久幸



年一九二九

本籍

慶尚南道東萊郡西面楊亭里二〇六番地

現住所

慶尚南道東萊郡西面楊亭里二〇六番地

職業

朝鮮總督府鐵道局雇員

山村彰雨



年一九二五

本籍

長崎縣西彼杵郡矢上村七八一番地

現住所

京城府錦町鐵道官舎七〇一

職業

朝鮮總督府鐵道局鐵道手

森

清吉



本籍 山口縣山口市吉敷上東所三九八九番地  
現住所 京城府漢江通三丁目七六番地  
職業 朝鮮總督府鐵道局鐵道手

年五四

田中謙一

年四四

昭和十七年二月十六日

鐵道大臣 八田嘉明 殿

左記ノ通立入(見學)致度ニ付承認相成度候也

記

一、目的 操車場、施設調査並ニ特殊隧道施設

工法取調、爲

二、見學所在地及名稱

所在地

名稱

神奈川県橘樹郡日吉村小倉

新鶴見操車場

大阪府三嶋郡吹田町

吹田操車場

山口縣下關市

關門隧道

三、區域 關門隧道、吹田、新鶴見各操車場構



内一般

四日時

新鶴見操車場

昭和七年三月九日

吹田操車場

三月五日

關門隧道

三月五日

五方法

錄取

六、使用器具類、名稱 萬年筆又ハ鉛筆

七、作業者、住所氏名及年齡

住所

氏名

年齡

京城府錦所三番地

野方壽國

四〇

仁川府山根所二番地

高田 稔

二八

平安北道 博川郡東南面孟中里洞鐵道官舎

德安 哲

四二

八. 作業ノ場所

- 1. 神奈川縣橋樹郡自吉村小倉
- 2. 大阪府三島郡吹田所
- 3. 山口縣下關市

江原道 江陵郡江陵邑洪齊里一六番地  
 忠清北道 永同郡黃澗面鐵道官舎  
 咸鏡北道 茂山郡延上面上倉洞  
 慶尚北道 安東郡安東邑鐵道官舎  
 慶尚南道 東萊郡西面楊亭里二〇六番地  
 京城府 錦町鐵道官舎七〇一  
 京城府 漢江通三丁目七六番地

伯山正行 三八  
 橋本貞雄 三八  
 藤井數雄 三〇  
 井中久幸 二九  
 山村彰兩 二五  
 森清吉 五四  
 田中謙一 四四  
 新鶴見操車場  
 吹田操車場  
 關門隧道

九、成果物、頁數及其用途

錄取、頁數

一〇

錄取、用途

鐵道業務參考、為

以上

本籍

咸鏡南道咸州郡退潮面龍興里一八番地

現住所

平安北道博川郡東南面孟中里洞鐵道官舎

職業

朝鮮總督府鐵道局技手

德安哲



年四二

本籍

平安北道龍川郡楊下面立岩洞二八番地

現住所

江原道江陵郡江陵邑洪奇里一六番地

職業

朝鮮總督府鐵道局技手

伯山正行



年三八

本籍

神奈川縣高座郡藤澤町鶴沼村原

現住所

忠清北道永同郡黃澗面鐵道官舎

立入(見學)許可願

本籍 福岡縣三潯郡城島所三三八番地

現住所 京城府錦所一三〇番地

職業 朝鮮總督府鐵道局書記

野方壽國



年四〇

本籍 岡山縣小田郡北川村大字甲字七三九番地

現住所 仁川府山根所二二番地

職業 朝鮮總督府鐵道局書記

高田 稔



年二八



大日本帝國政府

鐵庶第八三號

昭和十七年二月二十六日

朝鮮總督府鐵道局長 山田 新十郎

鐵道大臣  
八田 嘉明 殿

省線關門隧道其ノ他諸施設見學ニ關スル件

別紙申請ノ適當局關係者十名ヲシテ業務上見學セシメ度ニ付認可相成  
度候

職業

朝鮮總督府鐵道局技手

橋本貞雄



年三八

本籍

香川縣香川郡園座村大字山崎四番地一

現住所

成鏡北道茂山郡延上面上倉洞

職業

朝鮮總督府鐵道局技手

藤井數雄



年三〇

本籍

島取縣島取市立川村一四四番地

現住所

慶尚北道安東郡安東邑鐵道官舎

職業

朝鮮總督府鐵道局技手

井中久幸



年二九

本籍

慶尚南道東萊郡西面楊亭里二。六番地

現住所

慶尚南道東萊郡西面楊亭里二。六番地

職業

朝鮮總督府鐵道局雇員

山村彰雨



年二五

本籍

長崎縣西彼杵郡矢上村七八一番地

現住所

京城府錦町鐵道官舎七。一

職業

朝鮮總督府鐵道局鐵道手

森

清吉



年五四



本籍 山口縣山口市吉敷上東所三九八九番地  
現住所 京城府漢江通三丁目七六番地  
職業 朝鮮總督府鐵道局鐵道手

田中謙一

年四四

昭和十七年二月二十六日

鐵道大臣 八田嘉明 殿

左記一通立入(見學)致度ニ付承認相成度

候也

記

一、目的

操車場、施設調査並ニ特殊隧道施工  
法取調、爲

二、見學所在地及名稱

所在地

名稱

神奈川縣橘樹郡日吉村小倉

新鶴見操車場

大阪府三嶋郡吹田町

吹田操車場

山口縣下關市

關門隧道

三、區域

一、般

關門隧道、吹田、新鶴見各操車場構内

四、刈草時、新鶴見操車場

昭和十七年三月九日

2. 7. 口線吹田操車場

降門三期三箇

2. 6. 口線吹田操車場

谷田三期三箇

五、方軌法、新鶴見操車場

海關見操車場

六、使用器具類、名稱、萬年筆、又、鉛筆

七、作業者、姓名、新鶴見、長谷、坂、年、齡

住新所、新鶴見、新鶴見、新鶴見、新鶴見

氏名、新鶴見、新鶴見、新鶴見、新鶴見

京城府、錦町、新鶴見、新鶴見、新鶴見

野方、新鶴見、新鶴見、新鶴見、新鶴見

仁川府、山根町、新鶴見、新鶴見、新鶴見

高田、新鶴見、新鶴見、新鶴見、新鶴見

平安北道、博川郡、新鶴見、新鶴見、新鶴見

德安、新鶴見、新鶴見、新鶴見、新鶴見

江陵郡、法陵、長谷、坂、年、齡

新山、新鶴見、新鶴見、新鶴見、新鶴見

定清北道  
永同郡 黃稠面 鐵道官倉

成鏡北道  
茂山郡 延上 倉洞

慶尚北道  
安東郡 安東邑 鐵道官倉

慶尚南道  
東萊郡 西面 楊亭里 二。六 番地

京城府 錦所 鐵道官倉 七。一

京城府 漢江通 三。自 七。六 番地

大 新 興 場 所

神奈川縣 橘樹郡 日吉村 小倉

大阪府 三島郡 吹田所

山口縣 下關市 車場

丸 成 果 物 入 員 數 及 其 用 途

橋本貞雄 三八

藤井數雄 三〇

井中久幸 二九

山村彰雨 二五

森清吉 五四

田中謙一 四四

新鶴見操車場

吹田操車場

關門隧道

昭和十七年三月廿日

錄取員數  
錄取用途

一。  
鐵道業務參考，為

以上

第九二第

29

保存期限

三年

決裁指定

局長  
委任

決行指定



政務次官  
回付  
決裁前後  
連帶  
課名

拾年付

決行(決裁)後  
回覽課名

受領  
番號

壹第九七四號

起元廳(課)名

鐵道省

件名

軍用資源秘密保護法、立入ニ關スル件

大臣

委

政務  
次官

次官

主務  
局長

參與官

高級  
副官

主務  
課長

書記官

主務副官  
官房御用掛

主務課員

審案  
筆記者



大臣 房官	主務 局長	主務 局長	主務 局長
了結 昭和 年 三月十九日	受領 昭和 年 三月十三日	提出 昭和十七年 三月十三日	受領 昭和十七年 三月十二日
防衛甲第一一一號			

決行後 回覽	連帶
局長	局長

課長	課長
----	----

左

軍

陸普

大臣ヨリ鉄道大臣へ回答

三月十日 日附鉄軍秘 第二一 號ヲ以テ協定ニ係ル首題

ノ件當方ニ於テハ費條件ニテ許可相成差支無之ニ付回答ス

陸普第一四七四號

明治七年三月十四日



秘

鐵軍秘第二一號

九又四

17. 3. 12

昭和十七年三月十日

17. 3. 12

鐵道大臣 八田 嘉明

陸軍大臣 東 條 英 機 殿

海軍大臣 嶋 田 繁 太 郎 殿

(連名各通)

軍用資源秘密保護法ノ立入ニ關シ與亞院與亞鍊成所長事務取扱及川源七ヨリ別紙承認申請有之候處當方支障無之ニ付東京鐵道局長ニ對スル開示ヲ含メ併セ承認ノコトト致度此段及協議候



陸軍省 宛 三

見學立入許可願

興亞院興亞鍊成所長事務取扱 及 川源七

昭和十七年二月七日

鐵道大臣 八田 嘉明 殿

興亞院附設興亞鍊成所女生約十五名左記ノ通見學立入致度ニ付許可相成度候也

左記

- 一、目的 鐵道工場知識修得ノタメ
- 二、見學ノ所在地及名稱 埼玉縣大宮町 大宮鐵道工場
- 三、區 域 機關車及客貨車職場

四日

時 昭和十七年三月十六日（月曜日）自午前十時至午

后二時

五方

法 見 學

六使用器具類ノ名稱

ナ シ

七作業者ノ住所氏名

東京市神宮外苑日本青年館内

興亜錬成所々生 萩 原 榮 治外十五名

八作 業ノ 場 所

ナ シ

九成 果物ノ 員 數 及 其ノ 用途

ナ シ

十其ノ 他 参考 事項

ナ シ

内 閣

同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同

興  
亞  
鍊  
成  
所  
々  
生

立  
入  
者  
名

若越福坂松川上山中小田東加一齋萩 簿

林場士田本原山邊原島子峰藤丸藤原

正三三敏平太節直平正 常文豐義榮

十 四

二郎郎雄郎郎治美郎二健二吉馬治治

見學立入許可願

興亞院<sup>興亞</sup>鋪成所長事務取扱 及 川 源 七

昭和十七年二月二十七日

鐵道大臣 八 田 嘉 明 殿

興亞院附設興亞鋪成所々生約十五名左記ノ通見學立入致度ニ付許可  
相成度候也

左 記

一、目 的 鐵道工場知識修得ノため

二、見學ノ所在地及名稱 埼玉縣大宮町 大宮鐵道工場

三、區 域 機關車及客貨車職場